さくら第481号
令和 2年1月

さくら

発行所　さくらそろばん
発行者　平瀬重雄
春江町境17-7:TEL51-1337
hirase@mx2.fctv.ne.jp

『あいさつで、明るく楽しく元気よく』

1年の計は元旦にあり、1日の計は朝にありとよくいいます。1年は日々の積み重ねであり、朝は365回やってきます。だから、いかにして気持ちのよい朝を迎え、その日を過ごし納得した時間を得るかです。

そしてまた、やる気のある朝を迎えるかであり、このくりかえしが1年となり、5年、10年へとつながるのです。気持ちのよい時間を過ごすには、明るく楽しく元気よくがんばることだと思います。そしてこの気持ちを支えるのが挨拶を続けることです。

不機嫌な暗い顔でめんどうくさいというような声で挨拶されると、その日が楽しくありませんからよい結果もなく、気持ちがしずんでしまいます。やる気の出ない日もありますが相手に対しては挨拶をしっかりしたいものです。

ところで、挨拶の挨という漢字はもともとは、打つとか押すという意味があり、拶の字は近づく、進むという意味だといいます。挨拶は本来押して進む、押してちかづくという意味の熟語です。

『1挨一拶』という言葉があり、禅宗のお坊さんたちの間で、相手がどれくらい禅についての知識があるか、自分と比べてどう違うかなどを調べるために、問答をするのに使われていたといいます。よく交わす挨拶のなかに、今日(こんにち)は、今晩(こんばん)は、すみませんなどがあります。

『今日は』というのはもともと、今日はごきげんいかがですか、今日はよいお天気ですねなどと話しかけていたのです。

『今晩は』も、今晩は体が冷えますね。今晩は星がよく見えますねなどと、後ろに挨拶の言葉を続けていました。それがいつしか「こんにちは」「こんばんは」だけになりました。

人と別れる時の挨拶としては**「さようなら」**がふつうですね。もともとは、別れる時の言葉として「然様(さよう)ならば、そういうことならば」に続くお別れですね。ごきげんよろしくなどの言葉が無くなり、「ば」もとれて「さようなら」だけになってしまったそうです。

「さようなら」の「さよう」は、さようでございます、その通りですと同じ意味があり、相手の言ったことがまちがいないという意味です。

「作様」と書くこともありますが、これは当て字であり前に起きたことを示す「然・しかり」が正しいです。

朝、自分より先に出てきていた人に対して、あとから来た人が、お早いですね、お元気でなによりですという意味を込めて「お早うおこしで」などと声をかけていたのが始まりとされています。

「いただきます」と言って食事を始めます。漢字では戴く、または頂くと書きます。これは、身分の高い人から物をもらったり、神様や仏様におそなえしたものを受ける時に、頭の上にのせてたり、かかげたりするような動作から生まれた言葉だといいます。食べる、飲むことをうやまう言葉として使われたのが、やがて、食べ始める前の言葉として「いただきます」が使われるようになったといわれています。挨拶のいろいろな言葉の意味を調べてみましょう。

あいさつってうれしいな
『おはよう』というと目がさめる
『いただきます』というとおなかがすく
『いってきます』というとげんきにいける
『ありがとう』というときもちがいい
『ごめんなさい』というとほっとする
『おやすみなさい』というといいゆめみられる
あいさつってうれしいな

(愛知県小学生の詩)